

西広島バイパス都心部延伸事業整備効果検討会 検討結果の総括



西広島バイパス都心部延伸事業
整備効果検討会

本検討会では、これまで「西広島バイパス都心部延伸事業」の必要性・効果、費用対効果について検討し、地元状況の確認を行ってきたところである。この結果について、以下のとおり総括するものである。

地元の状況

事業の早期再開・早期供用に向け、地元経済界・企業において事業促進協議会が設立されるなど、地元行政と官民一体となって取り組んでいるところであり、広島市議会における早期供用を求める決議や沿道の地域団体からの早期全線開通を求める要望書が提出されるなど、事業の早期再開は地元の総意であり、地域全体の機運は非常に高まっている状況であることを確認。

事業の必要性・効果

本事業の目的である交通渋滞の緩和や沿道環境の改善について、未整備区間である都心部延伸区間の整備により、高架道路へ交通の転換を図ることで効果の発現が期待されることを確認。

また、本事業の実施により、観光支援や医療支援、防災機能の強化等の様々な整備効果（ストック効果）の発現も併せて期待されることを確認。

さらに、本事業は、広島市と周辺23市町が連携して取り組む『200万人広島都市圏構想』の実現や『都市再生緊急整備地域』の指定による広島市都心部の活性化などを支える、広島広域都市圏はもとより中国地方の発展にとっても極めて重要な事業であることから、本事業を実施する今日的意義は極めて高いことを確認。

費用対効果

基準等の改訂による増額を考慮した費用便益比においても、便益が費用を上回っていることを確認。

西広島バイパス都心部延伸事業は、上記の取りまとめ結果より、早期整備が必要であることを確認した。